

再評価項目調査

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ○ 再評価後 (年) ● その他 (変化)				
1 事業概要	事業名	都市計画道路 ^{こくどうやまてせん} 国道山手線 街路整備事業				
	事業場所	下松市 ^{きよせちよう} 清瀬町三丁目～大字 ^{すえだけなか} 末武中 地内				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 平成 25 年 時 》 平成 26 年度 ～ 令和 10 年度 《 令和 2 年度 》 (西暦 2014 年度 ～ 西暦 2028 年度 《 西暦 2020 年度 》)				
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 1,800 百万円 》 2,450 百万円 (788 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	735 百万円 (496 百万円)	進捗率 (用地補償費)	30 % (63 %)
	事業目的	<p>本路線は、下松市の中心部を東西に通過する幹線道路であり、下松市と周南市の市街地を連絡する重要な役割を担っている。また、第一次緊急輸送道路に指定されており、防災上も重要な路線である。</p> <p>しかしながら、当該区間は2車線で交通容量が不足し、朝夕を中心に慢性的な交通渋滞が発生しており、円滑な交通に支障をきたしている。</p> <p>このため、4車線化や交差点改良を行うことにより、交通渋滞の緩和による市街地間のアクセス性の向上を図るとともに、自転車歩行者道の整備により、通学路をはじめ、安全で快適な歩行空間を確保する。</p>				
事業内容	<p>○延長：L=0.8km (4車線化、自転車歩行者道整備)</p> <p>○幅員：全幅25.0m (車道3.25m×4=13m、自転車歩行者道3.50m×2=7m、中央帯4.00m)</p> <p>○道路区分：第4種第1級</p> <p>○計画交通量：20,000台/日</p>					
事業効果	<p>○当該区間は通学路に指定されており、自転車歩行者道の整備により、児童、生徒をはじめとする歩行者及び自転車利用者の安全性が向上する。</p> <p>○周南市街地と下松市街地とのアクセス性が向上し、日常生活の利便性向上や地域経済の活性化が期待される。</p> <p>○第1次緊急輸送道路である本路線の4車線化整備を行うことにより、防災機能の強化が図られる。</p>					
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>山陽自動車道の徳山東ICと都市計画道路中央通線を連絡する都市計画道路榎浜久米線が平成25年度に完成し、また、下松市市街地を横断し、本路線に接続する都市計画道路青木線が平成27年度に完成している。</p> <p>さらに、下松市通学路交通安全プログラムや令和3年度通学路合同点検において、当該区間が要対策箇所に掲げられている。</p> <p>周辺道路の整備が進む中、周南市側の隣接事業(都市計画道路中央通線)との一体的な整備が求められており、事業の必要性は依然として高い。</p>			中項目評価	大項目評価
	関係市町及び地元の意向	<p>本路線は、下松市都市計画マスタープラン(2011-2030)において、「市内の都市形成の骨格であると同時に、広域交通の主軸となる路線」として位置付けられており、毎年、下松市から早期整備の要望を受けている。</p> <p>また、周南市中心部から久米交差点まで間は整備済みであり、久米交差点から下松市の末武中交差点までの早期4車線化が期待されている。</p>			中項目評価	大項目評価

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前 回</th> <th colspan="2">今 回 (再評価・再々評価)</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>(基準年：H25)</th> <th colspan="2">(基準年：R4)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>2,565</td> <td>2,758</td> <td>2,758</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>193</td> <td>287</td> <td>287</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>73</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>2,826</td> <td>3,118</td> <td>3,118</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>1,466</td> <td>2,264</td> <td>1,457</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>46</td> <td>129</td> <td>129</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>1,512</td> <td>2,393</td> <td>1,586</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td>1.9</td> <td>1.3</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル (H22. 11)」 基準年：H25 平成17年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル (R4. 2)」 基準年：R4 平成22年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p>	区分	主な項目	前 回	今 回 (再評価・再々評価)		備 考	(基準年：H25)	(基準年：R4)					全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①走行時間短縮便益	2,565	2,758	2,758		②走行経費減少便益	193	287	287		③交通事故減少便益	68	73	73		④その他の便益					総便益	2,826	3,118	3,118		費用 (C)	①事業費	1,466	2,264	1,457		②維持管理費	46	129	129		③その他					総費用	1,512	2,393	1,586		費用便益比 (B/C)		1.9	1.3	2.0		大項目 評 価 A ● B ● C
		区分	主な項目			前 回	今 回 (再評価・再々評価)			備 考																																																														
				(基準年：H25)	(基準年：R4)																																																																			
					全体事業	全体事業	残事業																																																																	
便益 (B)	①走行時間短縮便益	2,565	2,758	2,758																																																																				
	②走行経費減少便益	193	287	287																																																																				
	③交通事故減少便益	68	73	73																																																																				
	④その他の便益																																																																							
	総便益	2,826	3,118	3,118																																																																				
費用 (C)	①事業費	1,466	2,264	1,457																																																																				
	②維持管理費	46	129	129																																																																				
	③その他																																																																							
	総費用	1,512	2,393	1,586																																																																				
費用便益比 (B/C)		1.9	1.3	2.0																																																																				
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>用地補償の進捗は63%に達しており、残りの箇所についても、既に交渉を進めている。 また、令和5年度から工事に着手することとしており、今後、計画的な事業進捗が見込まれることから、引き続き、当該区間の整備を進める。</p> <p>【事業費の変化】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 無</p> <p>事業費の増は、電線共同溝整備の実施や橋梁基礎工の変更、橋添架物件の移設費用及び建物補償費の増加による。</p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 無</p> <p>用地補償の遅延及び電線共同溝実施に伴う関係者調整、設計検討に時間を要したことにより、事業期間を令和10年度まで延伸する。</p>	大項目 評 価 A ● B ● C																																																																					
	(4) 代替案等の可能性	<p>コスト縮減</p> <p>発生土については、現場内利用や他工事へ流用することによりコスト縮減を図る。</p> <p>代替案</p> <p>機能面や沿道利用の観点から、既存道路を拡幅する形で都市計画決定 (W=25m、4車線) されており、代替案の検討の余地はない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>中項目 評 価</th> <th>大項目 評 価</th> </tr> <tr> <td>①・②</td> <td>● A</td> </tr> <tr> <td>中項目 評 価</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>①・②</td> <td>● C</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	①・②	● A	中項目 評 価	B	①・②	● C																																																													
中項目 評 価	大項目 評 価																																																																							
①・②	● A																																																																							
中項目 評 価	B																																																																							
①・②	● C																																																																							
3 環境	配 慮 事 項	<p>○低騒音・低振動型の建設機械を使用する。 ○排水性舗装により、交通騒音の低減を図る。 ○橋梁工事に際しては、河川の汚濁防止対策を十分に行う。</p>																																																																						
4 対応方針	総 合 評 価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																																						
	評 価 理 由	事業の必要性、整備効果を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																																						
	備 考																																																																							

【用語説明】

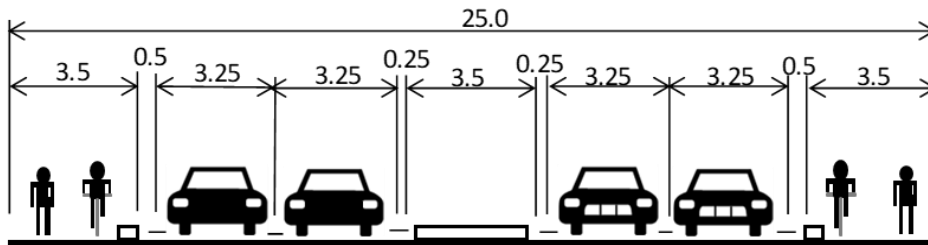
- ※1 ○○○○： …以下説明
 ※2 ○○○○： …以下説明

都市計画道路国道山手線 街路整備事業

<位置図>



<標準断面図>



<写真>



現道の課題 (交通容量の不足)



現道の課題 (狭小な歩道)